

2021 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本喘息学会

正式名称

日本喘息学会「気道アレルギー実習セミナー」

医学教育事業の概要

気管支喘息、上下気道アレルギー疾患および併存症に関する講義と実習

講義内容は小児喘息、成人喘息、上下気道アレルギー疾患の基礎知識・検査・診断・治療、重症喘息の治療戦略

実習内容は呼吸機能測定、吸入指導、鼻腔所見の観察、免疫療法、生物学的製剤の自己注射指導等

医学教育事業の対象者 (100 文字以内)

主な医療関係者：医師 薬剤師 看護師

対象となる医療関係者の想定人数：500 人

医学教育事業の必要性/目的 (300 文字以内)

日本では気管支喘息（以下、喘息）患者の人数は推定 1000 万人とも言われ、小児から高齢者まで年代層に問わず年々増加傾向にある。喘息死が減少したとはいえ 70～80%の喘息患者でコントロールが不完全であり、QOL が損なわれている。喘息死の地域格差は現実に存在しており、全国の治療均霑化を目的に 2014 年にアレルギー疾患対策基本法が制定された。

当セミナーでは、即戦力となるエキスパートの育成とともに、日本医師会、日本薬剤師会、日本看護師会など幅広い職種に参加を求め、基礎から臨床・診断・治療までを講義のみではなく、実技指導も伴った気道アレルギー疾患知識の底上げを目的とする。

医学教育事業の計画・方法等 (600 文字以内)

1. 参加者、受講者：医師、薬剤師、看護師、メディカルスタッフ、学生

2. 参加費（不課税）

医師 15,000 円、薬剤師 5,000 円、メディカルスタッフ・学生 2,000 円

3. テキスト：参加者全員にテキストを郵送する。

4. セミナー：1回/年 主要都市 1 会場を選び施設をレンタルして本セミナーを行う。

(ア)講義：予約制ではない。

(イ)実習：各パートごとに、事前に予約制とする。必要な物品は、全てセミナー側で用意する。

5. 講師/座長：喘息治療に精通した内科医・小児科医、耳鼻科医、皮膚科医、眼科医

6. 場所：東京、大阪、愛知

7. 具体的なテーマ：

<講義>

小児喘息の基礎知識・検査・診断・治療、重症喘息の治療戦略

成人喘息の基礎知識・検査/診断・治療、重症喘息（Th2、非 Th2）の治療戦略

鑑別診断：喘息併存症慢性閉塞性肺疾患(COPD)、上気道疾患（花粉症、副鼻腔炎）、口腔アレルギー症候群、好酸球性食道胃腸炎、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、アレルギー性結膜炎

<実習>

呼吸機能測定、呼気一酸化窒素、呼吸抵抗測定装置、発喀痰採取、皮膚テスト、

誘発負荷試験、気道過敏性検査、気道可逆性検査、運動誘発試験、吸入指導、鼻腔所見の観察、鼻汁検査、舌下免疫療法の実際、皮下免疫療法の実際、生物学的製剤の自己注射指導

医学教育事業の効果の測定方法 (200 文字以内)

各講義・実習後にセクション毎に、スマートフォンによるアンケート調査を実施し、学習効果の評価、喘息専門医取得のための単位カウントをとり、集計する。その結果を分析し、次回の講習会に求められる講義内容、講師選択に利用する。セミナー開催 6 か月後に、参加者全員にアンケート調査を行い、セミナー当日に学習した知識を臨床の現場で実践しているか、また効果などについて集計をとる。

医学教育事業の学会内外への周知方法と成果の共有方法 (100 文字以内)

パンフレットを作成し、日本医師会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本小児科学会、日本薬剤師会、日本看護師会などの学会誌に同封する。全国大学医学部学生、薬学部学生、看護学部学生などにも広報する。

医学教育事業助成終了後に教育を定着させるための計画 (200 文字以内)

- ・日本喘息学会専門医制度を早急に作る予定である。本セミナーの受講を必須とする。
- ・日本喘息学会ホームページ上に、プログラム、アンケート調査、感想などを公表し、次回の参加者を募る。
- ・アンケート調査で高評価であった講義・実習の内容をコンテンツに残す。